

## 令和元年度第1回佐伯市総合教育会議

1 日 時 令和元年7月24日(水) 15時30分～17時

2 場 所 佐伯市役所5階庁議室

3 出席者 (構成員)

佐伯市長 田中 利明

教育委員会

教育長 土崎 谷夫

教育委員 桑門 超

教育委員 米倉 ゆかり

教育委員 岩佐 礼子

教育委員 平井 國政

(関係者)

まちづくり推進課

食育推進・市民協働係総括主幹 柴田 真佑

(事務局)

総合政策部長 高原 常彰

総合政策部政策企画課

課長 植田 実

政策企画係総括主幹 安藤 正充

政策企画係副主幹 神崎 陽子

4 議 題 子どもと食育について

【講演要旨】

～食べることは生きること～

・食育推進の業務説明

平成17年の食育基本法制定により、「食育」が普及

市町村合併のメリットは食材の豊富さ

ふるさとの風景や味を子どもたちの胸に刻んで欲しい

食育関係課は18課(観光、ブランド推進、農林水産、清掃等)

平成20年度に食育推進会議条例及び食のまちづくり条例を制定

SKO48(佐伯菌ちゃん野菜応援団)が消費・安全局長賞受賞

・子どもを取り巻く状況

児童虐待の増加

不適切動画を配信する10代後半の子たちが将来親になることの不安

朝ごはんを食べない子の増加

- ・東日本大震災で被災した子どもたちへの食育  
いただきます、ごちそうさまの意味（「いのち」をいただく）
- ・「弁当の日」の取組  
食材の買い出しをすることで社会を知る（経済感覚、産地、賞味期限）  
失敗を恐れず試行錯誤するなかで成長する（あこがれを成長の糧にする）  
親に感謝する気持ちを育む
- ・「巣立つ君たちへの自炊塾」  
フレンチのシェフや佐伯出身の先輩から炊飯やみそ汁作りを学ぶ  
ふるさとの香り（いりこのだし）を心に刻む  
今日食べた物が明日の自分を作る  
大学などでふるさとを離れる前に、家族へ料理を作ってあげて欲しい

#### 【意見交換】

- (桑門委員) 下の子が上の子にあこがれを持つことの大切さなど、良い話を聞くことができた。
- (米倉委員) 弁当を作ることが難しい家庭への配慮は。
- (柴田総括) 家庭の状況を友人が心配し、その子の分を持って来てくれた例もあった。食材を持ち寄り朝弁当に詰めるなど、工夫の余地はある。
- (岩佐委員) 教育委員会としてのサポートはどうすれば。
- (柴田総括) サポートしていただいている。地域おこし協力隊と学校の連携など、徐々に体制を整えたい。
- (平井委員) 食育は実行しないと伝わらない。美味しいものを食べることが大切。給食費の無償化ができれば。
- (柴田総括) 三つ子の魂百までという言葉のとおり、子どもの味覚形成は重要。
- (教 育 長) 弁当の日に離席・欠席する子がいた。経済格差が子どもの心に及ぼす影響、給食の果たす役割は大きい。経済的に不自由がなくても、ネグレクトや孤食などの問題を抱える子どももいる。佐伯市の学校給食は美味しいという声を聞くが、地元食材の安定供給は、費用の面でも課題がある。
- (市 長) 弁当ひとつ取っても内容が深い。家族に対する感謝が弁当を通して表現される。「心の食育」の普及を今後ともお願いしたい。

#### 5 その他

議題提案の依頼

#### 6 閉 会